

子ども達の様子取材①

いあひあ
ルーム



「いあひあルーム」は、有料のプログラム（「まーぶ」でも対応）を除き、登録をすれば無料（「スポーツ安全保険」別途要）で利用できる。過ごし方は様々。室内で過ごしたり、外のグラウンドで体を動かしたり！

子ども達が「何か仕事ない？」と、施設の受付にやって来ることもあるのだから



「いあひあルーム」にやって来た子ども達が「まーぶ」の仕事をするのも日常茶飯事。「らいつとびあニュース」を折る仕事や、シール貼りなど、多岐にわたる

「まーぶ」とは？

箕面市内で子どもが学んだり働くことについて、手に入れることのできる地域通貨。子どもも大人も100まーぶ=100円として買い物したり、「自分の夢を叶える」ことできる



グラウンドに面するドアに置かれた洗濯かごと洗濯機。洗濯は毎日のようにある「まーぶ」の仕事なのだから。昨年、小誌の8月号で紹介した「まーぶハローワーク」（左写真）で子ども達が付けていた水色のビブスも、ここで洗濯！

いあひあ
食堂



「いあひあルーム」を訪れる子ども達の中には、お弁当を持って来る子もいれば、お金を渡されてもカップ麺で済ませようとする子、何も持たずに来る子もいる。本当は食べたたくも「いらん！」と強がる子が見られたことから、併設する厨房を使い「いあひあ食堂」として昼食の提供を始めた。実施は長期休みの火～土曜。子ども達は300円または「100まーぶ」で食べることができる



栄養バランスが考えられたメニューを、シェフ登録をした地域のボランティアさんが調理。この日担当していた丸岡さん（左写真）は「家でご飯が食べられない色々な事情が日本で広がっていると思いますが、私達がお手伝いすることで、食事が出来たりお友達と一緒に過ごす時間が楽しくなれば」と優しい眼差しで子ども達を見つめていた。「いあひあ食堂」はボランティアと寄付に支えられている



おいしい！



巻頭特集

らいつとびあ21

自分らしく居られる場所、人と繋がる場所

入ってすぐ右手には、コンサートや喫茶イベントが開かれる「展示コーナー」、突き当たりには児童書でいっぱい「らいつとびあ図書コーナー」、その手前には受付カウンターとロビー、2階には子育て支援センター「おひさまルーム」もある。一見、どこにでもありそうな公共施設だが、そこで展開されている事業は実にユニークだった。

「展示コーナー」で「らいつとびあ21」のスタッフと一緒にクリスマスコンサート



「いあひあ食堂」でお昼ご飯！みんなで食べる温かいご飯は美味しいね



思い思いの時間を過ごす「いあひあルーム」。ゲームをしたり、ボールで遊んだり、飛び跳ねたり、元気がいい！



子ども達が「朝食屋さん」に！6年生向けプログラム「卒業おめでとう」の参加資金を貯めるのだから

人と人の繋がりを作りながら 人権文化・社会課題を発信

「なにやら面白い事業をたくさんしている施設があるらしい。」「らいつとびあ21」と呼ばれる「箕面市立萱野中央文化センター」（以下「らいつとびあ21」）との出会いは約1年前。「施設内で行うコンサートの情報を掲載できないか」との問い合わせがきっかけだった。誰もがふらっと気軽に立ち寄り、プロの本物の音楽・文化、を無料で楽しめるという「よしみちコンサート」聞けば、その会場が地域の子どもが手伝って、しかも、「よしみちコンサート」は数ある事業の一つだという。「一体どんな施設なのか」と知りたくなり数日後「らいつとびあ21」を訪れた。

施設としての歴史は、昭和46年に隣保館として地域住民の生活や就労相談の拠点として開設した「萱野文化会館」から始まる。昭和49年には、地域の子どものための自主学習支援等を行う「萱野青少年会館」が開館。両施設の機能を併せて、平成7年の施設改修に伴い「箕面市立萱野中央文化センター」としてリニューアルオープン。

平成22年からは、かねてより萱野地域の課題解決や人・地域のネットワーク形成に尽力してきた「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」が指定管理者として運営。現在、箕面市内全域の子どもから高齢者を対象に、総合的な生活相談子どもと若者達の居場所づくり・支援といった暮らしのサポートや、社会課題・人権文化の発信を行いながら、市民が気

安心して、のびのびと過ごす 子ども達のための場所

同施設では、子どもの姿をよく見かける。それは「いあひあルーム」の利用登録をしている子ども達だ。「いあひあルーム」とは、放課後や長期休みに子ども達が安心して過ごせる居場所や活動の場として施設内に設けられているスペースで、小学生・高校生までの子どもが利用できる。集団遊びやおでかけ、時には工作や料理をしたりと、様々なプログラムを実施。そのほとんどが子ども達のニーズに応えたもので、常に担当スタッフが子ども達の「やりたいこと」のつばやき、に耳をすませている。スタッフは一緒に遊んでくれたり、トラブルが起きれば「どうしたん？なんでそうなったん？」と、とことん向き合う。親でもなく、学校の先生とも違う存在。だからこそ打ち明けられることもある。「らいつとびあ21」は、子ども達が色々な大人と関わる場所でもある。

「朝食屋」さんの様子

「展示コーナー」に新設された「喫茶コーナー」で300円のモーニングを提供。その内容はコーヒー or 野菜ジュース・ゆで卵・トースト・惣菜と、お店そのもの。開店の感想を聞くと、「楽しい」とニコリ



大人との関わりの中で成長して、 信頼する・されることを深く学ぶ

とある祝日の朝、「朝食屋」と看板をあげた喫茶コーナーのカウンターに女の子が2人、お客さんを前に「ご注文は何にされますか？」と注文を取り、朝食の準備をしている。これは、普段「いあひあルーム」に通う彼女達の「お店をやりたい」という声を吸い上げ、社会体験として実現したプログラムだという。子ども達のプログラムの一つ、接客対象は「一般のお客さん。普段会うことのない大人と接する、貴重な体験。それに、仕事にも緊張感が伴う。」「ちゃんと仕事しよう。」「まーぶの仕事の時も同様、子ども達に「らいつとびあ21」スタッフが伝えている。中村さんは「子どもだからと甘やかさず、一人のスタッフとして接しようと思っていて」と話す。一人の人間として信頼される、そう実感できる環境なのだ。「大人と接する機会が多いと、大人・教職員への信頼に繋がったりもします。色々な大人が自分達のことを見ていて、協力してくれると感じているのは、子ども達の出店を聞きつけて朝食を食べに来ていた「萱野小学校」の先生方の言葉だ。」「らいつとびあ21」にはたくさん大人の目がある。その中で仲間や自分らしさを見つけてながら、育っていく子ども達。「おもしろい大人にたくさん出会って欲しい。」「何かあった時、帰って来られる場所でありたい。」「そう願うスタッフの思いが、人を巻き付ける様な事業を生んでいた。

取材協力

らいつとびあ21
箕面市立萱野中央文化センター
住所：箕面市萱野1-19-4
TEL：072-722-7400
HP：https://www.raipi.org

◀ 奇数月に発行される情報誌「らいつとびあニュース」。その月に行われるイベント情報や、施設の取り組み、お勤めの本などが紹介されている。施設の周辺地域約3,800戸に配布。HPでもPDFで閲覧できる



▶ 「よしみちコンサート」の準備をしながら、リハーサルで聞こえてくるアラビアの音色に聞き惚れる子ども達